

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

慶應義塾大学

医学部

科目

数学

総括

試験時間	100分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

<総論>

慶大・医としては、質・量ともに近年にない軽さであるので、合格には満点に近い得点が必要であると思われる。

<特記事項・トピックス>

確率の出題が20年以上続いており、そのほとんどは漸化式に関連した出題であるが、今年の問題は8年ぶりに漸化式に関連しない問題であった。

曲線の長さ・道のりが3年連続で出題された。この分野の出題は過去5年間で4回目である。

はさみうちの原理を用いる問題が2題出題された。

記述式の設問は [IV] (4)のみであるが、このように記述が少ないのは近年の傾向である。

<合格への学習対策>

場合の数・確率、平面座標、数列・極限、微分法、積分法の占める割合が多いので力を入れて学習する必要がある。難易は一定ではなく、今年のように極めて易しい年もあれば、5割を確保するのも難しい年もあるので、どのようなレベルの出題でも困らないように日頃から多方面の問題に取り組み、最後まで計算を実行する習慣を身につけておくべきである。過去問とよく似た問題が出題されることもあるので、できれば過去10年分の問題は研究しておきたい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
[I] (1)	空所補充	B	空間座標	3点を通る平面と座標平面の交線・なす角を考える。平面の方程式についての知識があると解きやすい。	やや易
(2)	空所補充	III	関数の増減 面積・体積	関数の最大値、図形の面積、回転体の体積を求める。	易
(3)	空所補充	III	複素数平面	複素数平面上で、直線を変換して得られる図形、直角二等辺三角形の頂点などを求める。一つ一つは難しくないが、手数が多い。	やや易
[II]	空所補充	A・B	確率 いろいろな数列	5つの確率を求めるが、相互の関係はない。(5)は、考え方によって計算量が違ってくる。	やや易
[III]	空所補充	II・B・III	三角関数 漸化式 極限	数列の和の極限を、はさみうちで求める問題。(2)で漸化式を作るところは、具体例が提示されているので難しくはない。	標準
[IV]	空所補充 ・ 記述	I・II・III	面積 2次関数 関数の増減 極限	面積が一定の条件の下で、放物線上の点と原点との距離について考察する。記述の(4)はそれ以前と無関係な設問だが、はさみうちの方法についてヒントが与えられているので易しい。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。